

小学校第6学年 外国語活動 学習指導案

期 日 平成 27 年 10 月 21 日 (水) 第 5 校時

場 所 山鹿市立山鹿小学校 6 年 3 組教室

指導者 教諭 岩木 太一郎

1 単元名

「Lesson 5 Let's go to Italy. 友だちを旅行にさそおう」 (Hi, friends! 2 文部科学省)

2 単元について

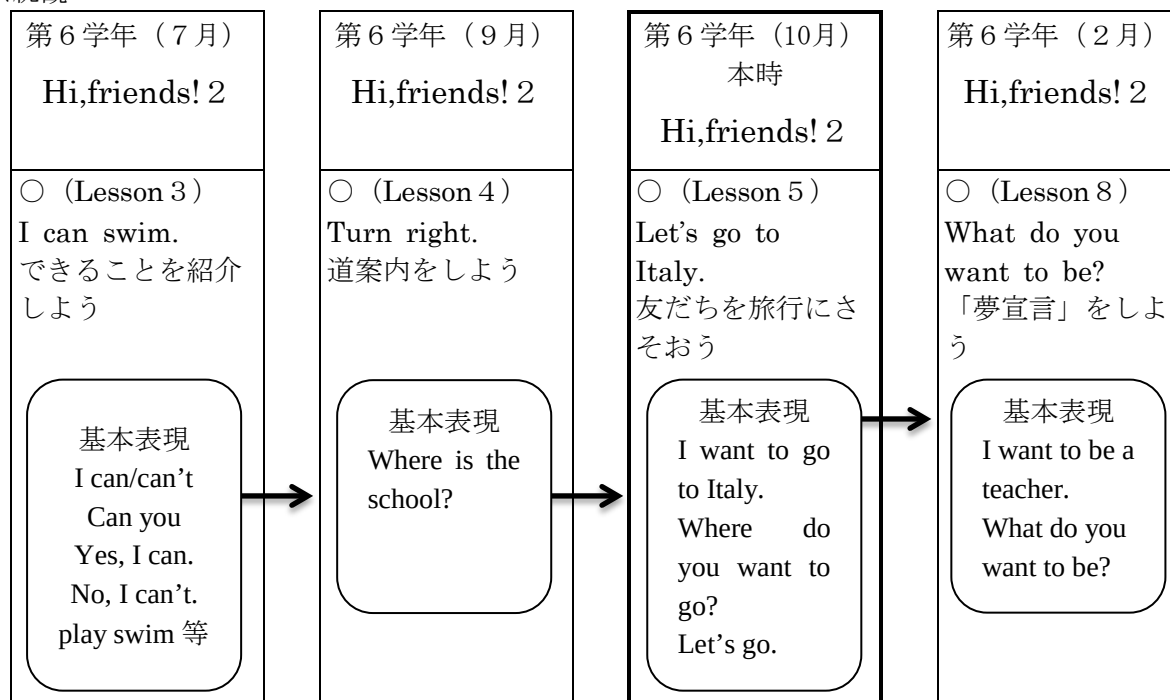
(1) 単元観

本単元は、世界の国々を題材としている。自分の思いが伝わるように、おすすめの国について工夫して紹介する活動を通して、コミュニケーションを図る楽しさや友だちのよさを味わうことをねらいとしている。また、世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付き、国旗や国名、世界遺産を知ることなどを通して世界に興味・関心を持たせるのに適している。

なお、本単元では、国名、友だちを誘う表現、「どこに行きたい?」と友だちに尋ねる表現や「行きたい」「食べたい」「見たい」などの自分の意思を伝える表現など、中学校で再び学習する様々な言語材料を扱う。小中連携の観点からも、これらの語や表現に十分慣れ親しませ、コミュニケーションの目的を明確にした活動を行うことで、英語学習に対する意欲を高め、今後の学習へスムーズにつないでいくことが求められる。また自分の行きたい国を紹介し合い、友だちの紹介する国々から自分の考えを再構築させることで、コミュニケーションへの積極性や人間関係の形成を促すことが可能であると考ええる。

本研究では、外国語活動を通して、21 世紀に求められる資質・能力の要素である「関係形成」を築くことをねらいとしている。この資質や能力を育むためには、ねらいに沿った単元構成及び指導が必要である。目的が明確な言語活動を通して、「アイコンタクト」「スマイル」「クリアボイス」はもちろん、相手の状況に応じて「確認する」「繰り返す」「発話のスピードに配慮する」「強調する」「訂正する」「ジェスチャーをする」「質問する」「反応する」など、個々の児童が相手意識を持って工夫しながら分かりやすく伝え合おうとする態度を育むことを重視する。また、「協働・協調的な学び」を通して、友だちと自分の将来の夢を紹介し合う活動から、自分の考えを再構築させることで、コミュニケーションへの積極性や人間関係の形成を促すことが可能であると考ええる。

(2) 系統観



(3) 児童観

○ 本学級の児童は 37 人で、全体的に明るい雰囲気のある学級である。何事にも興味を示し、意欲的に授業に取り組む姿勢がある。その一方で、自己表現を苦手とする児童も見られる。

(児童アンケート結果より：一部抜粋 平成 27 年 9 月 14 日 (月) 実施 34 人対象／37 人中)

4 (あてはまる) 3 (どちらかと言えば, あてはまる) 2 (どちらかと言えば, あてはまらない) 1 (あてはまらない)

	番号	質 問	結 果 (数字は人数)
意識調査	①	外国語活動の学習は好きだ	4 (2 2) 3 (1 1) 2 (1) 1 (0)
	②	クラスみんなは, いろいろな人の考えを大切にしている。	4 (1 8) 3 (1 5) 2 (1) 1 (0)
	③	自分は誰とでも, ペアやグループ活動ができています。	4 (1 5) 3 (1 3) 2 (6) 1 (0)
導入	①	学習の「めあて」(学習課題)を聞いたときやってみたいと思う。	4 (1 1) 3 (1 8) 2 (5) 1 (0)
	②	学習の進め方を聞いたときやってみたいと思う。	4 (1 4) 3 (1 8) 2 (2) 1 (0)
考え	①	先生から説明をうけるとときやってみたいと思う。	4 (8) 3 (2 3) 2 (3) 1 (0)
	②	活動前に自分の考えを考えたり, ワークシートに書いたりするときやってみたいと思う。	4 (1 2) 3 (1 6) 2 (6) 1 (0)
交流	①	ペアで学習するとき楽しい, やってみたいと思う。	4 (1 4) 3 (1 6) 2 (4) 1 (0)
	②	グループで学習するとき楽しい, やってみたいと思う。	4 (2 0) 3 (1 1) 2 (2) 1 (0)
	③	みんなと全体で活動するとき楽しい, やってみたいと思う。	4 (1 8) 3 (1 4) 2 (2) 1 (0)
	④	自分の考えを伝えることができたとき楽しい, やってみたいと思う。	4 (1 7) 3 (8) 2 (7) 1 (2)
	⑤	発表し合うことで, 分かるようになったとき楽しい, やってみたいと思う。	4 (1 9) 3 (1 4) 2 (1) 1 (0)
コミュニケーション	①	ペアやグループ学習では, 積極的に取り組むことができる。	4 (1 6) 3 (1 3) 2 (5) 1 (0)
	②	ペアやグループ学習では, 自分のことを伝えることができる。	4 (1 5) 3 (1 5) 2 (4) 1 (0)
	③	ペアやグループ学習では, みんなのことを知りたいと思う。	4 (1 5) 3 (1 7) 2 (2) 1 (0)
	④	英語で友だちや先生とコミュニケーションすることが楽しい。	4 (1 6) 3 (1 4) 2 (4) 1 (0)
	⑤	活動するときは (リスニング・スマイル・クリアボイス・アイコンタクト・ジェスチャー) を心がけている。	4 (1 4) 3 (1 3) 2 (7) 1 (0)
	⑥	英語を積極的に話そうとしている。	4 (1 2) 3 (1 6) 2 (5) 1 (1)
	⑦	英語を積極的に聞こうとしている。	4 (2 2) 3 (8) 2 (3) 1 (1)
振り返り	①	みんなと学習の様子を振り返ることで, 自分が分かったことや分からなかったことに気付く。	4 (1 5) 3 (1 5) 2 (4) 1 (0)
	②	振り返りカードで授業の振り返りをすることが楽しい。	4 (5) 3 (2 0) 2 (8) 1 (1)

○多くの児童が外国語活動の学習を好きであると回答している。しかし, 英語を積極的に話したり, 聞いたりすることに自信が持てない児童もいる。そこで, 言いたくなる聞きたくなる学習課題を単元を通して提示する。

○教師から説明を受けるときよりも, 活動前に自分の考えを持つことに有用感を感じているという実態

- から、ICT の活用や板書の工夫により、授業の流れを児童に意識させながら、授業を展開していく。
- 自分で考えて表現することに対しては、苦手意識を持つ児童も少なくない。ペアやグループ学習を活用しながら、自ら思考し自信を持って発信していく活動に、継続して取り組ませていく。
 - 目的意識や相手意識のある学習課題を設定し、互いに関わり合いのある言語活動を展開していくことで、自分の考えを伝えることや友だちの考えを知ることの喜びを感じさせる。
 - その時間の学習を振り返る際に、児童の言葉を生かしながら、クラス全体で振り返らせるとともに、自分の学びにつながる振り返りも大事にしていく。

(4) 指導観

- 外国語活動においては、コミュニケーション活動を通じた協働・協調的な学びが大前提となる。そこで 21 世紀に求められる資質・能力の育成のために、他者と協調しながら活動することによって獲得する価値を、「目的意識・相手意識に基づくコミュニケーションへの気付きや態度」とし、関係形成の構築をねらう指導を行う。
- 上記の価値の獲得をねらった指導と評価の計画を作成し、振り返りカードの項目に反映させる。毎時間の終わりに児童に学習を振り返らせ、その内容を共有することによって価値の自覚化を図る。

【視点 1】学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点 2】学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点 3】学びを支える 学びのUD化と 効果的な I C T の活用
【視点 1】 児童の学習意欲を高め、目的意識や相手意識を引き出す学習課題を設定する。また、語彙や表現を慣れ親しむ活動から価値あるコミュニケーション活動に至るまでの指導及び評価を計画する。	【視点 2】 目的意識や相手意識に基づくコミュニケーションへの気付きや態度をはぐくみ、人間関係形成力の高まりをみとめるための振り返りカードを作成する。また、活動の中では中間評価を行い、コミュニケーションへの価値付けを行う。	【視点 3】 授業の流れをパターン化するとともに、毎時間統一した板書計画とする。視覚教材や活動における教材を工夫したり、効果的に ICT を活用したりする。また、コミュニケーションスキルにおいては、継続的に指導を行う。

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

- ・一人一人が学習に見通しが持てるように学習過程を提示する。
- ・板書の書き方を毎時間統一し、安心して授業に取り組めるようにする。

【合理的配慮】

(省略)

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標	世界には様々な人たちが生活をしていることや英語の日本語の国名の表し方の違いがあることに気付き、行きたい国について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また、おすすめの国について積極的に発表したり、友だちの発表を聞いたりしようとする。
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	①積極的におすすめの国（自分の行きたい国）やその理由を伝えたり、友だちのおすすめ国（友だちの行きたい国）についての発表を聞いたりしようとする。
外国語への慣れ親しみ	①国名を聞いたり言ったりしている。 ②行きたい国について尋ねたり言ったりしている。
言語や文化に関する気 付き	①世界では様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。 ②日本語と英語の国名の言い方の違いに気付く。

4 指導・評価の計画（4時間取扱い 本時3／4）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【3つの視点から】	評価の観点（評価方法） B基準
1	1	○国名の言い方を知り、慣れ親しむ。 ○世界の国々の国旗や世界遺産について興味をもつ。 ・アルファベットの復習をする ・めあてをつかむ ・国旗や世界遺産について語彙に慣れる ・「国旗クイズ」をする	・一斉で国名の言い方に慣れ親しむ活動を行う。 【視点1】国名の言い方については、国旗カルタやポイントングゲームなど様々活動を通して、楽しく聞いたり言ったりすることができるようにする。 【視点3】授業の流れを示しておくことで、児童に見通しを持たせる。語彙に慣れ親しませるために、効果的なICTの活用をする。	外国語への慣れ親しみ① （行動観察・振り返りカード点検） 国名の英語を聞いたり言ったりしている。 言語や文化に関する気付き①② （行動観察・振り返りカード分析） 世界では様々な人たちが様々な生活をしていることや日本語と英語の国名の言い方の違いに気付く。
2	1	○行きたい国について、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・国名の復習をする ・めあてをつかむ ・「先生の行きたい国クイズ」をする ・ラッキーカードゲームをする ・友だちの行きたい国をインタビューする	・「どこに行きたい？」という尋ねる表現や「行きたい」「食べたい」「見たい」などの表現に慣れ親しませるため、様々な活動を通してできるだけ多く児童に聞いたり言ったりする活動を行う。 【視点1】旅行パンフレットを見せながら、言いたい聞きたいという必然性を持たせたコミュニケーション活動を行う。 【視点3】視覚教材や活動における教材を工夫することで、コミュニケーション活動の支えとする。	外国語への慣れ親しみ② （行動観察・振り返りカード点検） 行きたい国について尋ねたり答えたりしている。 コミュニケーションへの関心・意欲・態度① （行動観察・振り返りカード点検） 相手意識を持って、積極的に自分の行きたい国や友だちの行きたい国について言ったり尋ねたりしている。
3	1 本時	○おすすめの国を紹介する表現に慣れ親しみ、どんなPRの仕方をしたらよいか考え、自分の行きたい国を紹介する表現に慣れ親しむ。 ・自分の行きたい国を紹介する表現の復習をする ・めあてをつかむ ・「先生のおすすめの国クイズ」をする ・3人グループでおすすめの国を紹介する ・他グループとおすすめの国を紹介し合う	・基本表現を使いながら、自分の行きたい国について写真などの具体物やジェスチャーを使って分かりやすく伝え合わせる。相手の発表について返しや質問をさせ、聞く態度を育てるとともに、コミュニケーションを主体的に継続する態度を養う。 【視点1】グループ活動をメインに自分たちだけで活動を進める時間を増やす。 【視点2】分かりやすい伝え方や友だちのよさなど、児童の多様な気付きを今後の学習へつなぐような振り返りの時間とする。	コミュニケーションへの関心・意欲・態度① （行動観察・振り返りカード点検） ・グループの中で、自分たちのおすすめの国とその理由について分かりやすく説明している。 ・友だちのおすすめの国やその理由について興味を持ち、返しや質問をすることによって主体的にコミュニケーションを継続しようとしている。
4	1	○自分たちのおすすめの国をクラスに発表して、友だちのおすすめの国の発表を聞いたあと、「夢の世界旅行に行こう」から自分のプランを決定する。 ・おすすめの本を紹介する表現を復習する ・めあてをつかむ ・グループでおすすめの国紹介を確認する ・グループごとにポスターセッション方式でおすすめの国を紹介する ・自分の「夢の世界旅行プラン」を決める	・おすすめの本の紹介から、友だちの発表を聞いたあと、自分のプランを考えるという活動を設けることで、目的意識をより明確にする。 【視点1】目的に沿った内容を自分たちで分かりやすく説明したりコメントを返したりすることで、豊かにかかわり合う活動を行う。 【視点3】行きたい国について伝え合ったり質問したりすることで相互理解を深める。	コミュニケーションへの関心・意欲・態度① （行動観察・振り返りカード点検） ・グループで協力しながら、自分たちのおすすめの本を分かりやすく紹介しようとしている。 ・他のグループの発表に対し、返しをしている。

5 本時の学習

(1) 目標

グループで協力して、おすすめの国を分かりやすく紹介する。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 13分	1 あいさつをする。	○Let's start today's English class! Good morning. How are you?	授業の流れを掲示
	2 歌を歌う。 (チャンツ)	【視点3】授業の流れを示しておくことで、児童の学習意欲を継続させる。	
	3 表現を復習する。 (1) チャンツを歌う。 (2) 表現を確認する。	○Let's chant "Let's go to Italy!" ○チャンツ(音声教材)を聞かせ、絵カードを見せながら、一緒に歌う。	国旗カード(掲示)
展開 25分	4 本時のめあてをつかむ。 学習課題(めあて)	○表現を十分思い出させる。	
	おすすめの国を分かりやすく紹介しよう!		
	5 おすすめの国を紹介する表現に慣れ親しませる。 (1) おすすめの国を紹介する表現を確認する。 (2) チャンツを歌う。 (3) 先生たちのおすすめの国クイズをする。 (4) Let's Listen 2を聞き取る。	○You can eat/see/play ~ を使って、ヒントを出す。 ○音声教材を聞かせて、おすすめの国を紹介する表現を聞き、おすすめの国やその理由をテキストに書かせる。 ○おすすめの国を紹介する表現に十分慣れ親しませる時間を確保する。 【視点1】前次までの語彙や表現への十分な慣れ親しみを土台とし、より相手意識が必要な活動に取り組ませる。また、グループ活動をメインに自分たちだけで活動を進める時間を増やす。	I C T 電子黒板 デジタル教材 国旗カード(掲示)
	6 おすすめの国をPRする。 (1) 3人でおすすめの国を紹介する表現を考える。 (2) 3人で分かりやすく紹介するにはどうしたらよいか考える。 (3) 隣のグループと互いにおすすめの国を紹介し合う。	評価: コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (行動観察・振り返りカード分析) ・グループの中で、自分たちのおすすめの国とその理由について分かりやすく説明している。 ・友だちのおすすめの国やその理由について興味を持ち、返しや質問をすることによって主体的にコミュニケーションを継続しようとしている。	旅行パンフレット コミュニケーションカード
	【言語活動】(設定の意図) 3人のグループ(12グループ)になり、10ヶ国の中から相手に分かりやすく伝える工夫をしながらおすすめの国を紹介する活動を通して、相手意識を高める。	○おすすめの国を紹介する表現を個別に確認し、練習する。 ○自分と友だちの考えの共通点や相違点に気付かせる。 ○旅行パンフレットを見せることで興味を持たせる。 ○eat/see/playの表現を十分確認し、慣れさせておく。	ホワイトボード
整理 7分	7 学習を振り返る。 (1) 本時の学習で分かったことと気付いたことを伝え合う。 (2) 振り返りカードを書く	【視点2】コミュニケーションの難しさを感じる部分となるため、分かりやすい伝え方や友だちのよさなど、児童の多様な気付きを今後の学習へつなぐような振り返りの時間とする。 ○学習したこと共有化を図る。	振り返りカード

